

タイムゾーンの記載のないものはリヤド時間(UTC+3)である。

NRIs Coordination Session – NRIs は WSIS+20 に関して何ができるか？どのように貢献できるか？

日時：2024 年 12 月 15 日(日、Day 0) 11:15-12:45

場所：Workshop Room 10

NRIs（国別および地域別 IGF イニシアチブ）調整セッションでは、マルチステークホルダーによるインターネットガバナンスの強化と、WSIS+20 に向けた準備が議論された。主なポイントは以下の通り。

1. **能力開発と協力**：NRIs は、政府や議員を含むステークホルダーとの連携強化の必要性を強調。パンフレットやトレーニング、アウトリーチ活動などを通じて、この目標を達成する方法が提案された。また、ユースイニシアチブの包括と能力開発が優先事項として挙げられた。
2. **具体的な成果と文書化**：会議から具体的な成果物（政策提言など）を作成し、地域およびグローバルレベルでの継続性と影響力を確保する重要性が指摘された。
3. **政府との連携**：インターネットガバナンスプロセスへの政府の関与を促す課題が議論されました。議会議員を諮問委員会に招待したり、ターゲットを絞った教育資料を作成するなどの戦略が共有された。
4. **財政的持続可能性**：新規 NRIs にとって資金調達の課題が大きな問題であり、Internet Society Foundation や IGF Support Association（IGFSA）からの支援が NRIs の効果的な運営に不可欠であると認識された。
5. **IGF の未来**：NRIs が IGF の未来と WSIS+20 の形成に貢献する方法について議論された。IGF の次の 20 年を設計するためのワーキンググループを提案し、NRIs がセッションを開催してアイデアを提供することが推奨された。
6. **グローバルな協力**：NRIs が協力してベストプラクティスを共有し、その集合的な影響力を高めることが奨励された。また、メディアや公共啓発キャンペーンを活用してインターネットガバナンスの取り組みの範囲を拡大する戦略が強調された。

NRI Main Session – Evolving Role of NRIs in Multistakeholder Digital Governance

日時：2024 年 12 月 19 日(木) 13:30 - 15:00 (Day 4)

場所：Plenary Room

<https://blog.nic.ad.jp/2024/10443/> をご参照ください。

(NRIs Collaborative Session - Inclusion)

全てのコミュニティ向けの多言語包摂と普遍的な受容

日時：2024 年 12 月 17 日(火) 15:00-16:30 (Day 2)

場所：Workshop 9

本セッションでは、多言語性を通じたデジタル包摂を促進する上での課題、進展、戦略について議論された。主な議論は以下の通り。

- ユニバーサルアクセプタンス（UA）の重要性：
 - UA は、多様な言語をデジタルプラットフォーム（ドメイン名、メールシステム、アプリケーションなど）で利用可能にする上で重要。
 - UA により、すべてのスクリプトや言語が技術システムで受け入れられ、処理されるようになる。
- 実施の課題：
 - 技術的な障壁：従来のシステムは ASCII ベースの言語で設計されており、非 ASCII スクリプト（アラビア語、中国語、先住民族の言語など）の統合が困難。
 - 地域コンテンツの不足：技術的進歩がある一方で、オンラインコンテンツの大部分が英語で提供されており、多言語コンテンツの作成が必要。
 - 認知度と関与：UA の問題に対する認知が不足しており、広範な普及が妨げられている。

- 地域ごとの視点：

- カリブ地域：クレオール語やパトワ語などの地域言語を促進するための意識向上、協力、政策開発に注力。
- カナダ：先住民族の言語統合や、特に AI などの新技術におけるアクセシビリティ確保を目指している。
- アジア太平洋：国際化ドメイン名（IDN）の実装において大きな進展があったが、UA の課題克服には協調的な解決策が必要。

- 多言語包摂の戦略：

- 政策と標準：政府や組織は、IT システムやプラットフォームにおける UA 準拠を義務付ける必要がある。
- 教育とトレーニング：多言語インターネットの概念をカリキュラムや開発者トレーニングに統合することが重要。
- 草の根運動：特に周縁化されたコミュニティや新たなインターネット利用者を巻き込むことが持続可能な進展には不可欠。

- 協力の重要性：多言語包摂を達成するためには、技術専門家、政策立案者、企業、エンドユーザーの間での協力が必要。UA をグローバルな開発やデジタル包摂の取り組みに統合することで、その影響を拡大できる。

- 未来への展望：パネリストたちは、「言語の公平性運動」が必要であると強調した。最終目標は、母国語でのインターネットアクセスが平等に提供され、言語の壁が参加を妨げることのない真に多言語的なインターネットの実現である。

(NRIs Collaborative Session - Emerging Technologies) 新興技術ガバナンスにおける地域の経験

日時：2024 年 12 月 18 日(水) 14:30-16:00 (Day 3)

場所：Workshop 7

本セッションでは、AI、ブロックチェーン、IoT、5G などの新興技術の効果的なガバナンスの課題、戦略、協力の取り組みが議論された。主な議論は以下の通り。

1. 新興技術導入の課題：

- 発展途上国は、インフラ、資源、デジタル政策の制約により技術の活用に大きな障壁がある。
- デジタル格差は、特にインターネット接続や規制が不十分な地域において、不平等を拡大している。

2. 地域ごとの視点：

- **イラク・クルディスタン地域**：デジタルインフラの拡大、4G/5G の導入、AI や IoT の公共サービスへの統合に注力し、サイバーセキュリティと官民連携を優先。
- **ブラジル**：包括的かつ透明なガバナンスを確保するため、すべての新興技術に共通するガバナンスフレームワークを提唱。AI 研究センターや地域の技術革新を促進。
- **タンザニア**：STEM 教育、能力開発、政治的エンゲージメントを組み合わせ、農業、医療、環境安全分野で AI を活用。
- **中国**：AI ジョイントラボラトリーを通じて国際協力を推進し、技術的格差を埋め、知識共有を促進。

3. ガバナンス戦略：

- **包括的な政策フレームワーク**：政府は明確で包括的な規制を策定し、倫理的かつ公平な技術の使用を推進。
- **官民連携（PPP）**：インフラ整備、革新の促進、公平な技術アクセス確保のために不可欠。
- **能力開発**：特に STEM 分野での教育とトレーニングが重要で、若者のエンパワメントを目指す。
- **透明性と説明責任**：技術の展開における倫理的・技術的基準を確立するため、国際的な関係者と連携。

4. 国境を越えた協力：

- AI ラボラトリーなどの共同研究は、知識の移転と革新を加速。
- IGF のような国際フォーラムは、共通の課題と解決策を議論するプラットフォームを提供。

5. 地域 IGF の役割：

- 地域 IGF は、能力開発、多様な関係者との対話、地域特有の政策形成の拠点。

- 地域戦略を策定しながら、グローバルな基準とフレームワークに適合。

6. 地政学のおよび健康問題：

- 5G 以上の公平なアクセスと、技術の健康・環境への影響に関する透明な研究の必要性が強調された。
- 重要なインフラ展開に影響を与える地政学的緊張を克服するために、各国間の協力が重要。

7. 行動の呼びかけ：

- 政府、民間セクター、学界、市民社会を含む関係者間の連携を強化。
- 次世代をエンパワーするための教育と能力開発を優先。
- 持続可能で包括的な技術採用のための公平なガバナンスフレームワークを推進。

(NRIs Collaborative Session – Disinformation and misinformation) 選挙における偽情報対策

日時：2024 年 12 月 16 日(月) 16:30-18:00 (Day 1)

場所：Workshop 7

このセッションでは、選挙期間中の偽情報が民主主義や人権に及ぼす影響、対策方法、表現の自由を維持しながらそれに対応する方法について議論された。ヨーロッパ、アフリカ、南アジア、ラテンアメリカの視点が共有された。

主な議論：

1. 偽情報の課題:

- 偽情報は民主主義、国民の参画、情報に基づく意思決定を損なう。
- ソーシャルメディアは重要な通信手段である一方、偽情報の拡散にも利用される。
- 偽情報の性質や影響は、文化的・地域的な差異によって異なる。

2. 現在の取り組み:

- **欧州連合（EU）**：自主的かつ共同規制的なアプローチを採用。偽情報対策のための行動規範のもと、プラットフォームやファクトチェッカーが協力。

- **アフリカ:** ファクトチェックサイト、地域ラジオ、草の根記者のトレーニングが偽情報対策として活用されています。
- **モルディブ:** メディアリテラシー、文化特有の戦略、情報の完全性を促進するプログラムが進行中。
- **ブラジル:** インターネット運営委員会は、偽情報対策のガイドやフレームワークを作成し、システムリスクやコンテンツ管理を重視。

3. プラットフォームと規制の役割:

- Meta や TikTok などのプラットフォームは、透明性のあるアルゴリズム、ファクトチェッカーとの協力、積極的なコンテンツ管理を採用すべき。
- 規制は責任を追及する一方で、表現の自由を守り、革新を妨げないバランスが必要。

4. マルチステークホルダーの協力:

- 政府、プラットフォーム、市民社会、メディア間のパートナーシップが偽情報対策に不可欠。
- 国民に偽情報を見分ける力を与える教育キャンペーンとメディアリテラシープログラムが重要。

5. 懸念と提言:

- 一律のアプローチは、地域や文化の違いを考慮しないため、効果的ではない。
- 規制はコンテンツの管理ではなく、システムリスクに重点を置くべき。
- 信頼性、透明性、情報の完全性を促進する文化を築くことが重要。

6. 考察:

- 偽情報対策には、グローバルな協力と地域特有の戦略の組み合わせが必要。
- プラットフォームや技術企業の責任ある行動が求められる一方で、情報に基づいた市民と草の根イニシアティブの役割も重要。